

実習実施要項

日本モンテッソーリ協会(学会)公認 モンテッソーリ教員養成コース
九州幼児教育センター・トレーニングコース
第 47 期生

モンテッソーリ教員免許の取得のためには、日本モンテッソーリ協会(学会)が定めるところに従い、コース指定の実習園での教育実習を含めた多様な実習を行い、実施報告を行うことが必須です。本科生の2年次実習は観察を含む3週間で実施します。

【 全員共通 】

- A. 自園での観察実習 1週 (計5日間)
- B. 教育実習園での実習 2週

A. 観察実習 (非参与観察) : 1学期中に、自園にて実施すること

意識的に「観察」を実習することによって、モンテッソーリの提唱する「観察」の重要性を再認識・実践する機会を設けます。自分自身では主観的になりがちな保育を、客観的な観察により再考するのが目的です。

1. 「モンテッソーリの観察」の講義内で学んだ非参与形式で、要項に基づいた観察実習を行うものとする。
2. 観察実習は1学期内に 1日・2日間・2日間の計5日間、自園(本人の担当クラス以外)または近隣の保育現場において、同一の子ども3人(3歳児・4歳児・5歳児の各1名)を対象に非参与観察の形態で行う。
3. 実習後、実習生は集中経過のグラフと観察記録を作成し、規定期間内にコースへ提出すること。
4. 観察実習を実施する時期は、1学期内とする。日程の詳細は、園長と相談の上決定してよい。

- ・観察実習 実施期間 : 令和8年4月13日(月) ~ 8月28日(金)
- ・8月末週実施分のみ 令和8年9月4・5日 持ち込みを許可する

【観察のしかた・記録の取り方】

- 実習の計5日間、観察の対象となる各児に1日1枚、グラフを使用する。
- 観察は、自分が担任するクラス以外で、対象児を観察しやすい位置に座り、なるべく動かないようにして記録を取る。観察時間は、子どもの登園から帰宅までとする。

(観察前の準備)

担任から、対象児の家族構成や最新の家庭状況、作業への取り組み具合などを聞いておく。

(観察中の記録の取り方)

1. 登園と同時にグラフをつけ始める。登園時刻を記録し、対象児の様子を点数化して印をつける。
2. その後、15分おきに対象児の様子を点数化して印をつけ続ける。そのときの作業や活動を、時刻と共に記録欄に書きとめる。作業において繰り返しが見られる場合は、その回数も記録する。逆に何もせず、うろうろしている場合は、その様子を別紙に書きとめておく。その他、特筆することがあれば(喧嘩・褒められるなど)、それも記入する。
3. 点数は主観でつけてよいが、自分で基準を決めておくこと。+は集中具合、-は逸脱具合と考えるとよい。(例: 0…ごく普通、5…一心不乱の集中状態、-5…大声で泣いたり、暴れたりする)

(1日の分析)

1. 15分おきの印を線で結び、グラフを完成させる。
2. グラフの点数の平均を算出し、色を変えてグラフに記入する。
3. グラフから読み取れる、対象児の一日の印象を観察する。(感想や意見は書かない)
4. グラフから集中・逸脱のきっかけを見つけ、そのとき対象児が何をしていたか記録を見て、分析する。
5. 作業時間と、横割やその他の活動時間の対象児の様子を比較し、対象児にとっての作業とその他の活動との関わりを考察する。
6. 対象児が何もしていない時間があれば、記録を読み返し、一日の流れの中で何か意味があったかを考察する。
7. 対象児が作業を繰り返す傾向がみられる場合は、作業時間以外でも類似した傾向がないかを考察する。

【実習報告書の作成について】

下記1~3の項目に沿ってレポートを作成し、期限内に提出すること。

1. 対象児の5日間のグラフを読み比べ、5日間を通した変化の印象を観察する。(各児につき600字~800字)
2. 敏感期の有無、集中・逸脱の度合いの変化を考察する。(各児につき600字~800字)
3. 観察を通して明らかになった、自分の観察力を分析する。また観察を通して感じた、子どもの援助における自らの課題と、その対策として考えていることを述べる。(1800字~2000字)

○ 各児5日間のグラフに続けて各児のレポート1, 2を綴り、各児ごとに内表紙をつける。

最後にレポート3を添え、下表のようにI~Vの順に綴って一つにまとめる。綴じ方は規定に準じる。

I. 表紙	観察実習報告書(実習日記載)		
II. 3歳児	①5日分のグラフ	②レポート1: 5日間を通した変化の印象	③レポート2: 敏感期、集中・逸脱の変化
III. 4歳児	①5日分のグラフ	②レポート1: 5日間を通した変化の印象	③レポート2: 敏感期、集中・逸脱の変化
IV. 5歳児	①5日分のグラフ	②レポート1: 5日間を通した変化の印象	③レポート2: 敏感期、集中・逸脱の変化
V. まとめ	レポート3: 自分の観察力の分析と、子どもの援助における課題・対策		

B. 教育実習: 指定実習園で、2週の実習を行う

教育実習とはコース指定の実習園において子どもとの実体験を通し、一年次に学習してきたモンテッソーリ教育原理と実践を再確認することを主要な目的とします。その他、幼児教育並びに保育現場における多様な実情・事柄についても、出来る限り学習する事が望まれます。

1. 1週につき月曜日から金曜日まで指定された3人の子どもにのみ、実習生は作業提供しながら実習する。
実習生は作業時だけでなく、彼らの成長を援助することを最優先することが許されているので、園での生活すべてを通して3人の子どもとの人間関係を構築できるよう努める。実習は、回を重ねるにつれて子どもへの援助の困難度が上がっていく。

2. 実習中は毎日コースのスタッフ又はコース長の任じた指導者同席のもと、その日の実習内容について反省と考察を行う。受け身で与えられた課題をこなせばよいのではなく、子どもとのかかわりの中で自らの課題と向き合い、それを克服するための工夫や努力の姿勢が求められる。
3. 毎日の実習反省会の終了後、担当の子どもすべてについて報告書を作成する。
(所定の用紙を毎回使用、各自コピーして使用する。)
報告書の最後に実習の5日間を通して明らかになった、自己の姿を分析してレポートを添付する。
モンテッソーリ教員としての自らの課題と、対策として考えていることを述べる。(1800字～2000字)

提出規定

- すべての報告書は、実習修了後1週間以内に事務局あてに送付すること。
 - 1) 表紙に、各実習報告書を使用すること。(毎回使用、各自コピーして使用する)
 - 2) **上部に2箇所**に穴をあけ、**ひもで綴じて**後、送付する。
 - 3) 振替課題がある場合は報告書とは別途に綴じて(クリップ使用不可)、同封する。
 - 4) 封筒の表には「実習報告書在中」と明記し、内にも一筆そえる。
- 指導印確認(出席表)について
実習中、実習生は出勤の時に毎日出席表に捺印をして、実習指導者の確認を受けること。
これは全実習終了後に、最終報告書と共にセンターに提出する。
教育実習の際には忘れずに持っていき、紛失しないようにする。

【教育実習における連絡】

1. 実習生は、教育実習について、**毎回の実習の3週間前までに**、必ず実習先の園長と連絡をとり指示を受けること。又、**実習前週木曜日**までに再度連絡をいれ、最終確認を行うこと。
2. 実習園に緊急の事情が生じ、5日に満たないと判明した時点で、ただちにセンターに連絡して、振替課題の指示を仰ぐこと。
3. 事故や疾病による長期入院や忌引きなどで実習に行けなくなった場合は、すみやかに**センター事務局**及び**実習園**に申し出たうえで、センターの指示を待つこと。
4. 教育実習中の宿泊については、実習を行う園に詳細をたずね、宿泊場所(ホテル等)を確保することが必要になる。地域行事や観光シーズンなどと重なることがあるので、手続きは早めに行うこと。

【実習中の心得】

1. 実習前は体調を十分に整え、実習園に迷惑をかけることのないよう万全の注意を払うこと。
園や近親者に感染症の罹患の疑いが発生した場合には速やかにセンターに連絡すること。
2. 感染症対策は実習園に確認し、マスク等の着用は指示に従うこと。
3. 服装については、園とホテル間の行きかえりであっても節度をわきまえ、身だしなみに心がけること。
4. 実習中の変更事項は、どんなことでも、ただちにセンター事務局に報告すること。
園内の物損・破損も必ず報告を入れる。
5. 実習中のいかなる事故やトラブルに関して、当センターは一切の責任を負わない。社会人として責任をもって自己管理を行い、実習遂行に努力すること。
6. タクシーで園の門前や園庭に乗り付けないこと。私的な同伴者がいる場合でも園周辺では行動を共にするのを控えるのが望ましい。
7. 園の許可なく、子どもや教師の動画や写真の撮影は固く禁じる。園であったことの一切について、SNSに挙げないこと。
8. 教育実習園での実習を終えたら、必ず一週間以内に実習園園長ならびに指導教諭に礼状を出すこと。

【令和8年度教育実習実施園】

(令和8年3月現在)

幼稚園名	郵便番号	住所	TEL・FAX	園長・実習指導担当
あさひ幼稚園	734-0036	広島県広島市南区 旭2丁目 14-3	TEL 082-254-2153	園長 村上 貞子
			FAX 082-254-6231	他 松本 有紀
聖マルコ保育園	901-0205	沖縄県豊見城市字根差部 374-14	TEL 098-850-4299	副園長 川満すわ子
			FAX 098-850-4298	他 藤原江理子